

徳島赤十字病院臨床研修プログラム：救急科

コース責任者：福田 靖

研修期間：必修科（救急）として12週間
選択科として4週間から

I：一般目標（GIO：General Instructional Objective）

緊急を要する病態に対処し、プライマリケアの外来診療を速やかに実施できるようになるために、症状や身体所見、簡単な検査所見に基づいた鑑別診断、初期診療を的確に行う能力（手技を含む）を習得する。

II：行動目標（SBOs：Specific Behavioral objectives）

A. 基本姿勢・態度 研修医手帳を参照

B. 主な診察法・検査・手技

①主な医療面接・基本的な身体診察法

- 1) 担当患者を中心に基本的な医療面接、系統的全身診察や基本的臨床検査を行い、所見を挙げるとともに、正確に診療録へ記載することができる。
- 2) 緊急を要する症状・病態をもつ患者の初期診療が実施できる。
- 3) 患者の主訴・身体所見から行うべき検査の計画を立案することができる。
- 4) 緊急入院の適応を判断し、ベッドコントロールを含め関連部署に相談し、入院させることができる。
- 5) 必要に応じて専門診療科に対して適切にコンサルテーションをすることができる。
- 6) 災害時の救急医療体制を理解し、非常時の対応を把握することができる。

②主な基本的な臨床検査、及び手技

- 1) 気道確保、人工呼吸、気管挿管、静脈確保、採血、胃管挿入、軽度の外傷、熱傷の処置などの基本的手技を指導医または上級医の指導のもとで実施することができる。
- 2) X線、CT、MRI 検査の緊急適応か否かを判断することができる。
- 3) 輸液、輸血の適応を知り、実施することができる。
- 4) 適切な薬物治療を行うことができる。
- 5) 一次救命処置（BLS）、二次救命処置（ALS）を実施することができる。

C. 主な症状・病態の経験

意識障害、失神、心肺停止、ショック、脳血管障害、急性呼吸不全、急性循環不全、外傷、急性薬物中毒、中毒・アナフィラキシーショック、熱傷 など

Ⅲ：学習方法 (LS : Learning Strategy)

1) LS (方略) 1 : On-the-job training

- ・救急外来および救命救急センター、手術室での” On-the-job training” を中心とした救急部診療に参加する。指導医または上級医とともに治療にあたる。
- ・ラピッドレスポンスカーに同乗して、救急現場へ赴き患者の治療にあたる。

■補足

- ・一次救命処置 (BLS)、二次救命処置 (ALS) を習得することが望ましい。

2) LS (方略) 2 : カンファレンス・勉強会

- ・救急症例カンファレンスにて担当患者の症例提示を行い、問題点や治療計画についての意見交換を行う。

3) LS (方略) 3 : 学会・研究会・学術活動

- ・学術講演会や各種の院内研修 (医療安全や感染対策など) に積極的に参加し、学会発表や症例報告論文を作成する能力を身に付ける。

○週間予定表

	月	火	水	木	金
午前	ER 申し送り、ICU、救命センター回診、ER 研修、ドクター・カー、ICU 診療、入院患者カンファレンス				
午後	ER 研修、ドクター・カー、ICU 診療、ER 申し送り、講義	ER 研修、ドクター・カー、ICU 診療、ER 申し送り			

※ミニレクチャー、症例検討会は適宜実施

Ⅳ：学習評価 (EV : Evaluation)

PG-EPOC による総合評価

- 1) 個々の診療記録と退院要約 (サマリー) は、定期的に指導医の評価と承認を受ける。
※退院要約 (サマリー) は、1 週間以内に記載すること。
- 2) ローテイト研修終了時に、PG-EPOC に診療経験にもとづく自己評価を行い、指導医による評価を受ける。
- 3) 診察態度や協調性について看護部及びメディカルスタッフ等による 360 度評価を行う。